

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0063号
護國青年會議機関紙 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成21年9月7日

憲政史上最悪の売国政権誕生!!

日本は何処へ行く… 民主圧勝 自民惨敗

自民党凋落の原因と民主党の正体を暴く

先月30日に投票された総選挙は翌31日未明、全議席が決定した。民主党が改選前の115議席から大躍進して308議席を獲得し、民主党との連立が伝えられる社民党の7議席と国民新党の3議席を加えると連立与党の議席は実に318に達する。結果だけ見れば民主党の大勝だが、政権交代の真価が問われるのはこれからである。一方、自民党は公示前の300議席から119議席に激減した。その原因は何か、総理の資質の問題、国民の積年の不満等々が巷間取り沙汰されているが後述の2点に絞って検証した。(編集人・戸出蒼流)



着色満面の鳩山代表と苦渋に満ちた麻生首相

あるべき姿を見失った自民
予測されていた事とはいえ眼前に結果を突き付けられると俄かには信じ難く、茫然自失となっていました。表向きは厳肅な国民の審判の結果は、民主党が支持されたというよ

りも、本来真正保守である自民党が、そのあるべき姿を見失ったことで支持者が愛想を尽かし、雪崩をうって自民離れへと向かった結果だと思つた。麻生内閣が誕生して間もない頃、当時の国交相であった中山成彬氏が日教組を激しく糾弾したことがあった。この時、首相は中山氏を庇うどころか直ぐに更迭してしまつた。日教組が日本の教育を墮落せしめた張本人であり、民主党の強力な支持母体となつていることは周知の事実である。この更迭劇が引き金となり、決定的に自民党支持者の心が離れていったのは田母神氏の論文問題が起きた時である。「私は日本をいい国だと言つたら、即座に自衛隊航空幕僚長をクビになつた。自衛隊員は日本をいい国と思つてはいけならしい。自衛隊員は日本を悪い国だと思つて任務に就かなければならないのか。」

これはおかしいと思ひ、それなら懲戒免職にしてくれと言つたが、政府はそうはしなかつた。懲戒免職にする理由がなかつたからである。中略、麻生首相は、靖国神社参拝を政局の具にしたくないと言つたが、それは間違いだ。首相が毅然とした態度で参拝すれば、2回や3回は中国や韓国、少しおかしい人たちが文句を言つても知れないが、5回、6回となれば何も言わなくなる。私に言わせれば、首相は逃げているとしか思えない。」この夏、田母神氏は靖国神社の特設テントを埋め尽くした聴衆を前に政府と首相を痛烈に批判した。この田母神氏の発言は、まさに自民党が抱えた問題の本質を突いたものであり、「あるべき姿を見失つた」自民党の現状を浮き彫りにしている。「日本がアジア諸国を護るために起ち上がった先の大戦は断じて侵略戦争ではない」と主張する田母神氏の論文は、歴代内閣が認めている村山談話に反するとして、麻生首相は即刻田母神氏を更迭した。中山氏は「日教組は癌だ」と言い、田母神氏は「日本は侵略戦争などしてはいけない」と正論を述べている。両氏の発言の何処に問題があると言つのか。問題があるのは、正論を暴論と決め付け、両氏を断罪した自民党の体質だ。この時から自民党の凋落が始まつたと言つても過言ではない。



講演する田母神前航空幕僚長

公正さを欠くメディアの報道

「あるべき姿を見失つた」自民党に追い討ちを掛けたのはマスコミによる首相へのネガティブキャンペーンだった。ホテルのバー通いや漢字の読み間違い程度を嬉々として報道し、重箱の隅を突つづくように、陰険で執拗な喧伝を繰り返しておきながら、総理

が、党首討論で鳩山に対して、民主党による「日の丸切り貼り事件」の真相を糺すと、政策とは関係ないことだと言い、民主党のマニフェストの曖昧さを追求するとネガティブキャンペーンだと報道する。国旗を切り貼りして作った民主党旗の下で小沢が演説した事は紛れもない事



切り裂かれた日の丸

実である。高速道路無料化や子供手当は財源の裏付けがない政策だということも事実である。事実の指摘は誹謗でも中傷でもない。これをネガティブキャンペーンと言つのなら、石井一が国会で行つた首相に対する「漢字テスト」や、田中真紀子の「高そうな背広着たおじさん、引退しろ」という暴言や、前原誠二の「やるやる詐欺の常習犯」発言こそ国会議員の品位を著しく損ねたネガティブキャンペーンそのものではないか。しかし、メディアはこの破廉恥な言動を肯定的に報道し民主党に加担したのである。

商業メディアの紙面や画面は一度に数百万、数千万人が目にし、耳にする。それが正しい情報ならば結構なことだが、事実在即さない、或いは事実を歪曲した情報ならばこれほど危険なものはない。

何故ならば、大衆とメディアの関係は「盆の上の豆(曾野綾子)」だからである。メディアという盆の上に盛られた大衆は、自分達が豆であることに気付いていない。しかも豆には足がなく、自分で立つことも歩くこともできない。盆が右に傾けば右に動き、左に傾けば左に動く、つまり豆は盆の意のままに動くことしかできないのだ。しかし、豆はその自覚もなく、恰も自分の意志で動いているように錯覚しているのだ。その顕著な例が今回の衆院選である。

万死に値するメディアの大罪

メディアは、政権交代だけを論点とした「ワインシュー選挙」を仕掛け、絶え間なく、且つ巧妙に自民党へのネガティブキャンペーンを展開してきた。

具体的な政策や実績は無視し、雰囲気や容姿、老若や男女などを強調することによって大衆を抱く民主党と、その政策への不安に蓋をし、反自民へと誘導してきた。その結果が308対119という数字になって表れたのである。

来る日も来る日も麻生首相への誹謗中傷を垂れ流し、大衆を

洗脳し、日本の政治を「衆愚政治」へと誘導したメディアの罪は万死に値するといえる。筆者の周囲にも「盆の上の豆」と思われる人が多数いるが、その大半が「今回は民主党に入れた」のであって「今回も民主党

第45回総選挙は、自治労と日教組、民団と偏向マスコミに支えられた民主党の大勝利となり「盆の上の豆」が望んだ政権交代が実現した。

昨春秋、民主党は「民主党政策INDEX2008」という政策集を発表した。そこには民主党支持母体の意向が色濃く反映されている。特に「在日外国人参政権付与」は韓国民団の悲願であり、日本の地方自治を朝鮮人に売り渡す危険な法案だ。

「まさか、参政権を与えるくらいで大袈裟な」と思う御仁がおられるかも知れないが、筆者の住む八王子市の2年前の市議選(定数40)を例に挙げれば、当落ラインと言われた3000票以上3500票未満だった候補者が10人、2500票以上3000票未満が3人、計13人が1000票以内の差であった。此処に約8000人の在日外国人の意図が働いたらどうなるか：答は明瞭、13人の当落

に入れた」のではない。此処に自民党再生の余地が残されていないかと思う。自民党は、国民の積年の不満を払拭できなかったことを謙虚に反省しなければならぬ。大敗の責任は各人にあることを真

断固反対、在日参政権 マニフェストにはない民主党売国法案を暴く

など容易にひっくり返ってしまう。仮に在日外国人が、自分達の言うことを聞きそうな候補者に400票ずつ振り分ければ半数を制することとなる。在日の傀儡となった議員が暗躍すれば首長選挙にも影響を及ぼすこととなってしまう。「地方参政権くらいなら」という安易な考えは極めて危険である。

撃に受け止めるべきだ。自民党が本来あるべき姿を取り戻し、先人達が命を懸けて護ってきた愛する祖国、この美しく誇るべき日本を全身全霊を捧げて護ることが自民党再生の唯一の道である。

この参政権については殆どの人が勘違いされていて、日本にいるすべての永住外国人が対象と思っているようだが、実態は韓国人のための「在日韓国人地方参政権付与法案」と言つた方が的確であり、韓国と韓国人のための法案だと言える。つまり日本国と日本国民の主権と国益に逆行する法案である。

この売国法案を鳩山も小沢も菅も岡田も輿石も民主党の幹部全員が推進している。そして野党となった公明党は、支持母体であるカルト教団・創価学会に在日韓国人が多数いることから

諸手を挙げて賛成なのは言うまでもない。民主党や公明党の議員には、国家の主権に関わる参政権を外国人に与えることが、どれほど日本を危機に陥れるのかという認識が見られない。国内に永く住んでいる外国人と仲良くする事と選挙権を与えることは次元の異なることである。参政権が欲しいなら、先ず日本国への忠誠心を示せ！日本国の主権が脅かされた時、身を挺して護る覚悟を鮮明にしろ！それができない奴等に参政権を与えるなど言語道断である。

総選挙という祭りが終わりに残つたのは2万6千円の子供専用クジや中身の無い財源リಂಗゴ鉛、客が多すぎる年金すくいや走り放題のサーキット等に紛れた数々の闇法案だ。どうやら政権交代が残したものは「後の祭り」だけのよう

だ。 編集人・戸出蒼流